

第3回 城下のまち鶴岡将来構想策定委員会

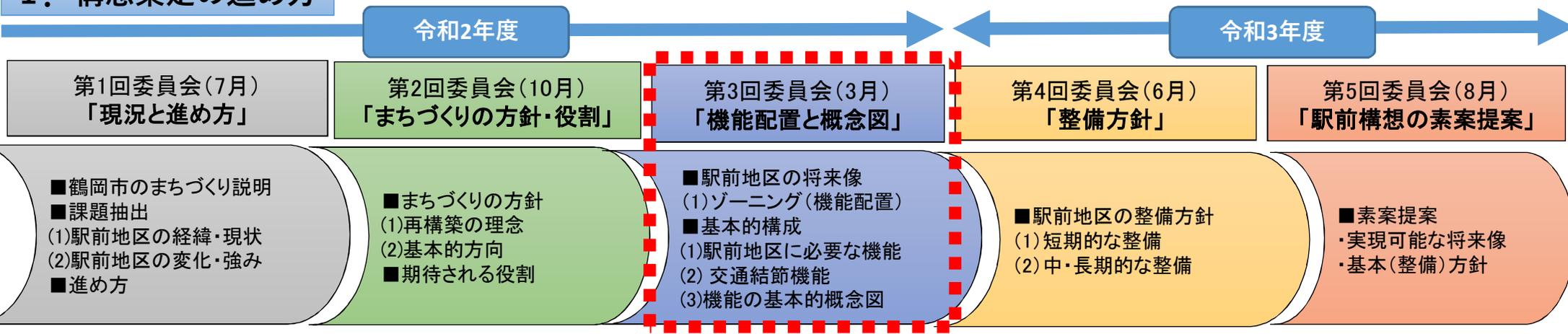
鶴岡駅
Tsuruoka Station

令和3年3月19日（金）
市役所6階大会議室

鶴岡市建設部都市計画課

1. **進め方とこれまでの経過** (資料1)
2. **高校生アンケート調査の実施について** (資料2)
3. **他市の事例紹介** (資料3)
4. **駅前構想骨子(案)** (資料1)
 - 駅前地区の将来像
 - まちづくりの方針
 - 想定される導入機能
 - ゾーンの構成
 - 将来機能のイメージ
5. **プランニングチームからのご提案**
(プランニングチーム資料)

1. 構想策定の進め方



2. これまでの経過

7月1日 第1回策定委員会

協議内容: 構想策定の進め方
駅前の現状と課題の抽出

【意見交換要旨】

《まちづくり全般》

- ◆地域の持続と社会基盤の強化
- ◆温暖化、災害、エネルギー等の社会課題
- ◆基盤産業である農業と一緒に町が発展
- ◆駅前と中心市街地の相互補完
- ◆鶴岡公園周辺への教育文化機能の集積
- ◆景観を生かしたまちづくりと「本物が残る城下町」

《期待》

- ◆公共交通網の整備
- ◆庄内の玄関口としての位置づけ
- ◆都市型サービス業の事務所機能集積
- ◆医療施設や緑地公園、図書館、資料館などの配置
- ◆市民の憩いの場
- ◆ランドデザインの中での鶴岡のあるべき姿
- ◆ポストコロナのあり方
- ◆中高一貫校をきっかけに

10月15日 第2回策定委員会

協議内容: 駅前の課題の整理、将来の社会像
まちづくりの方向性の確認

まちづくりの方向性

【プランニングチーム提案】

- キーワード : 「**令和の藩校**」
- まちづくりの方向 : **高校生を主体とした「学びのサードプレイス」**
※サードプレイス: 自宅・学校に続く、第3の居場所(学習、休息、憩い等の場)

【意見交換要旨】

高校生をターゲット

- ◆高校生の声を計画に反映することが望ましい。
- ◆高校生の時代から鶴岡の良さを理解してもらう活動を。
- ◆高校生をターゲットにすることで、地元に着が湧く計画が望ましい。
- ◆各種活動を通し、幅広い人との交流と楽しさの経験がUターンの促進につながる。
- ◆子供が学習しやすい場所、自身の思いを発表する場所の提供。
- ◆高校生への理解はあるがすべてが高校生で地域開発は成り立たない。

計画で配慮すべき視点

- ◆アイディアが想起される全国の再開発の事例紹介を希望。
- ◆駅と市内を繋ぐ計画が必要。
- ◆鶴岡駅は観光の拠点、観光の玄関口である認識は必要。
- ◆鶴岡駅前に世界と繋がる場所があることは夢を持てるプロジェクト。
- ◆隣接する工業団地との関連付けが必要。

まちへの期待

- ◆交流人口の目標を定め、食・文化・歴史を融合し交流という繋がりを継続する。
- ◆まちを使って高校生を(次世代)を育て、一方で高校生(次世代)がまちを育てる考えを。
- ◆城下町で歴史・文化・伝統があり、鶴岡が持つ、正当性・真正性が大事。

まちづくり方向性の確認（10/15 第2回委員会）

〈プランニングチーム提案〉

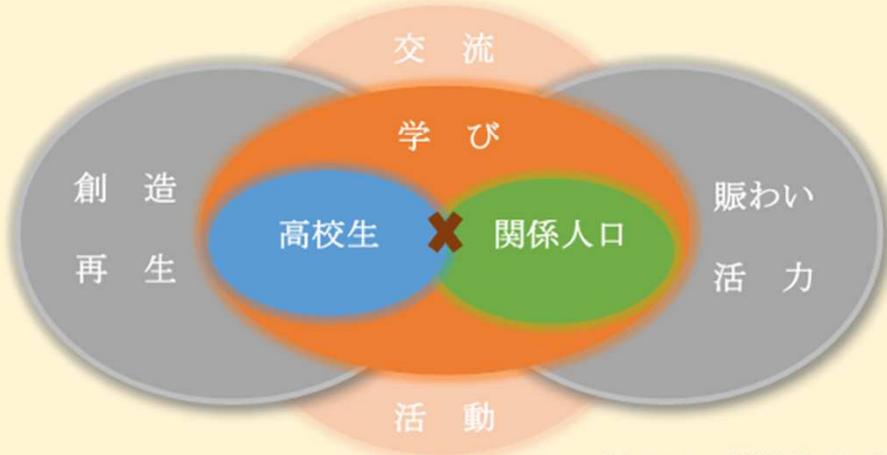
- キーワード : 「令和の藩校」
- まちづくりの方向 : 高校生を主体とした「学びのサードプレイス」*

※ 自宅・学校に続く第3の学習の場

高校生等アンケート（高校生等の意見、意向）

駅前地区の将来像（案）

- 高校生が集い使う、賑わいのある「駅前」
- 学びの場、活動の場にあふれる「駅前」
- デジタルで広がり、新たな創造を生む「駅前」
- 歴史・文化の地から（力）、世界とつながる拠点「駅前」
- 高校生の愛着が育ち、誇りを持てる「まち」



注) ここでの「関係人口」は、まちづくりのターゲットである高校生の学びや活動等と関わりをもって駅前で活動、行動等を行う人をいう。

まちづくりの方針（案）

方針1 高校生の学習、コミュニティ及び活動、活躍の場をつくる

⇒ 学び、サードプレイス、自主自立、社会参画

情報技術の発展に伴い、高校生等の学習の場が自宅（ファーストプレイス）、学校（セカンドプレイス）以外に求められている。地域そのものを学習の場さらには知識創造の場として捉え、高校生の誰もが気軽に利用できる第3の学習の場（サードプレイス）及び休憩、憩い、集うことができる場を提供するとともに、地域の産業、経済を学び、社会・経済活動への参画やインターン等職業体験できる機会を支援、提供する。

方針2 活力と創造が生まれ、持続・進化するまちをつくる

⇒ 再生・活性化、持続可能、次世代、コラボレーション

鶴岡市が持続的に発展する次世代につなぐまちづくりは重要なテーマである。まちを使って高校生を育て、高校生がまちを育てる機運を醸成し、合わせてアイデア等が想起される交流の場や駅前の人・分野を超えて地域と交流、マッチングできる機会を提供する。

方針3 市民の学習、教育、起業など学び、創成の場をつくる

⇒ 人生100年、価値観、市民文化、働き方、ライフスタイル

駅前を利用している子育て家族や観光客また高齢者は、日常的な地域活動の中心である。人、地域を豊かにする学びや文化活動の中心として、高校生のほか多様な人材が参加する生涯学習の場やリカレント教育の場、機会を創出するとともに、新たな働き方や生活様式に対応して、起業・創業支援の場、多様なオフィス機能を提供する。

方針4 人・地域が連携し人を惹きつけ、集まる、魅力あるまちをつくる

⇒ 個性、多様性、快適性、景観、女性、地域資源

大規模ショッピングセンター、インターネットショッピング、通販等が買物の主流となっている中で、食やコト等の地域資源を活用した新しい商業が動き出している。地域にある魅力的な食や文化、建物等の地域資源を活かして、楽しく快適に街歩きができる空間を創造する。

方針5 周辺の地域資源と連携し、地域の価値を高める

⇒ おもてなし、食文化、地産地消、連携、周辺商店街

国内観光及びインバウンドの需要は依然潜在的に高く、産業振興等活性化のためにも観光の復調が期待されている。既存の観光案内拠点を活かして情報案内、コンシェルジュ機能等を強化し、豊かな資源、食文化の発信や販売、地元食材を活かした飲食を提供するとともに、快適な来訪空間を創出する。

方針6 誰もが楽しみ、利用しやすく安全な環境をつくる

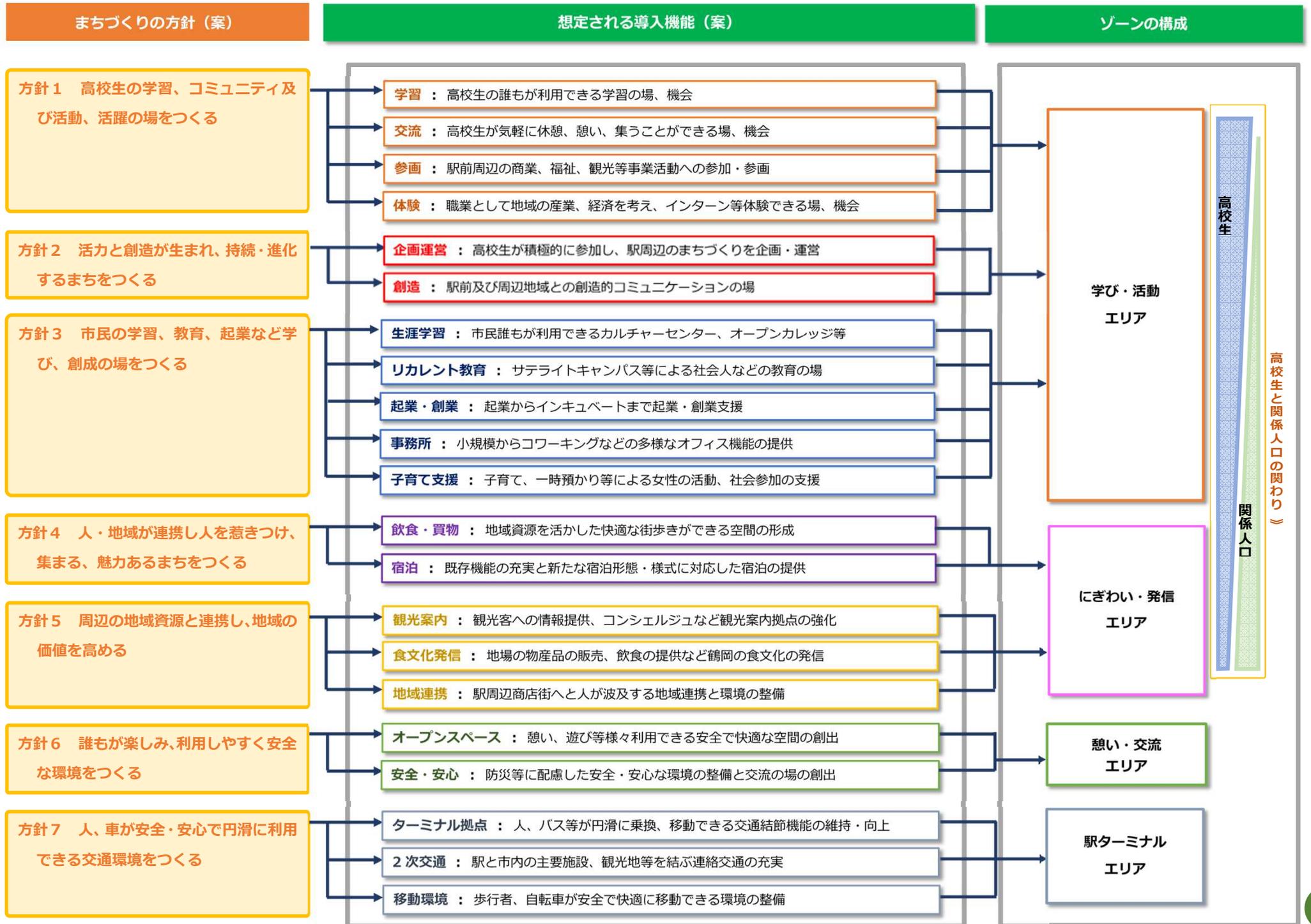
⇒ 憩い、イベント、空間、安心、防災、環境、バリアフリー

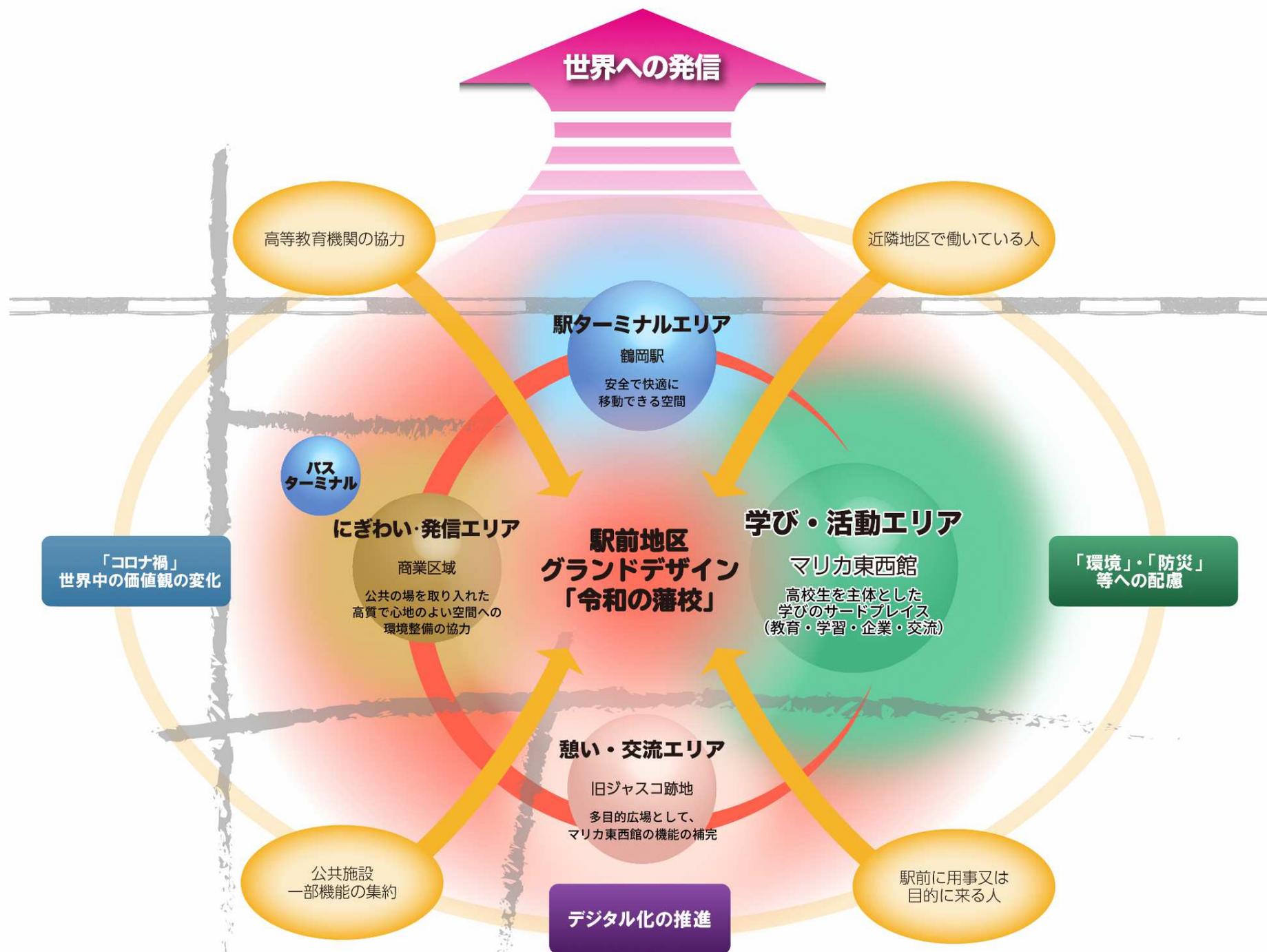
駅前是不特定の多くの人々が利用し、今後一層の利用、来訪が期待される。駅前を利用するすべての人々が憩い、交流することができる空間を創出し、災害に強い安全、安心でバリアフリーに配慮した快適な環境を整備する

方針7 人、車が円滑に移動、利用できる交通ターミナル拠点をつくる

⇒ 移動円滑、2次交通、歩行環境、情報提供

公共交通は高齢社会、環境配慮社会に対応した重要な移動手段である。交通ターミナル拠点として、鉄道、バス、タクシー等利用・乗換の機能・利便性を高めるとともに、観光地へアクセスする2次交通や安全で快適に移動できる環境を整備する





鶴岡駅前のまちづくりに関するアンケート

ねらい

第2回委員会にて、高校生を主体とした構想の方向性が確認できたことから、構想策定のための基礎資料として、主役となる高校生に駅前地区の利活用に関することやまちづくりへの意識調査を行うもの。

- コロナ禍により、ワークショップの実施や生の声を聞く機会は断念
⇒ **アンケート調査の実施**

調査内容

- 紙面アンケートによる記述方式
- 学校のHRの時間を活用
- 依頼期間：12/11～12/25
- アンケート項目：
 - ① まちづくり全般に関すること
 - ② 駅前地区の利用状況に関すること
 - ③ 駅前地区の活用に関すること
 - ④ まちづくりへの関りに関すること



調査対象

生徒1,035人、教職員172人

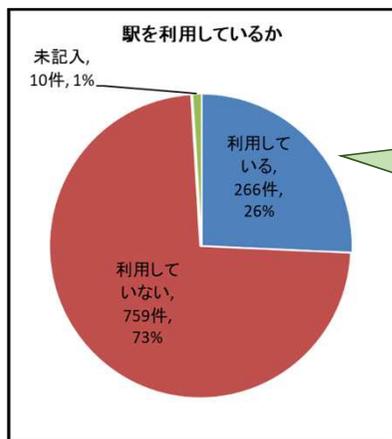
田川地区10高等学校の生徒及び教職員

- | | | |
|--------------|-----|-----|
| ● 鶴岡南高等学校 | 2年生 | 教職員 |
| ● 鶴岡北高等学校 | 2年生 | 教職員 |
| ● 鶴岡工業高等学校 | 2年生 | 教職員 |
| ● 鶴岡中央高等学校 | 2年生 | 教職員 |
| ● 鶴岡東高等学校 | 2年生 | 教職員 |
| ● 加茂水産高等学校 | 2年生 | 教職員 |
| ● 庄内農業高等学校 | 2年生 | 教職員 |
| ● 庄内総合高等学校 | 生徒会 | 教職員 |
| ● 羽黒高等学校 | 生徒会 | 教職員 |
| ● 鶴岡工業高等専門学校 | 生徒会 | 教職員 |

生徒回答

【回答数】1,035人

● 鶴岡駅(バス停含む)を通勤で利用していますか？



<利用内訳>

- 電車通学 69%
- バスの乗降のみ 19%
- その他(送迎等) 5%
- 未記入 7%

● まちなかの課題や、まちなかにこんなものがあつたら良いと思うもの(こと、場所、施設)を教えてください。

●課題(複数回答があつた課題)

遊べる場所がない、買い物できる場所が少ない、カフェが少ない
交通の便が悪い(道路が狭い、歩道が少ない含む)

●要望

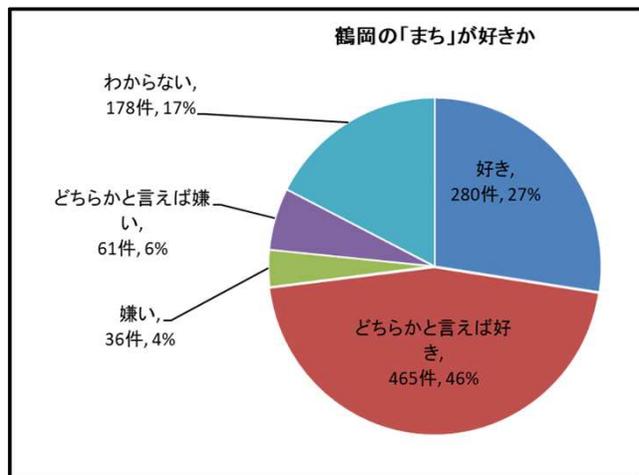
学習スペース、学生が遊べる場所、気軽に飲食できる場所、運動ができる場所、国際交流の場、映画館、ゲームセンター、ショッピングモール

● 鶴岡駅前地区で高校生が活動できる・利用できる施設や機能はどのようなものだと思いますか？

●複数回答あつたもの

勉強できる場所(146 ※関連ワード入れるとそれ以上)、ライブハウス(106)、ボランティア活動の場(49)、職業体験スペース(33)、図書館(24)、国際交流の場(22)、DIYを自分で行える空間(19)、お菓子製造販売(18)、大学の講座を受講できる場(16)、ROUND1、WIFI、遊べる場所、イベント施設、運動施設、映画館、飲食スペース、作品展示スペース、買い物ができる場所、カフェ、ジム、休憩スペース、ゲームセンター、スマホを使った情報発信拠点

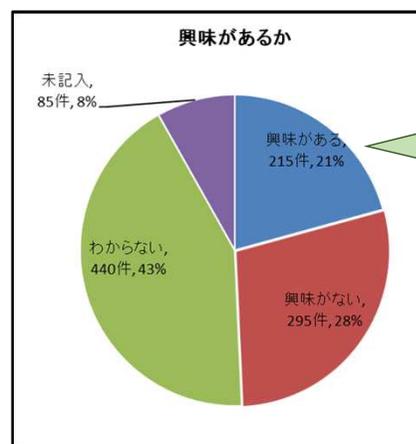
● 鶴岡の「まち」が好きですか？その理由は何ですか？



- 好きな理由は？
自然環境が豊か、食文化が豊か、まちの雰囲気が良い

- 嫌いな理由は？
遊べる場所がない、買い物など日常生活が不便

●あなたが主体的にまちづくりに関わることに興味はありますか？



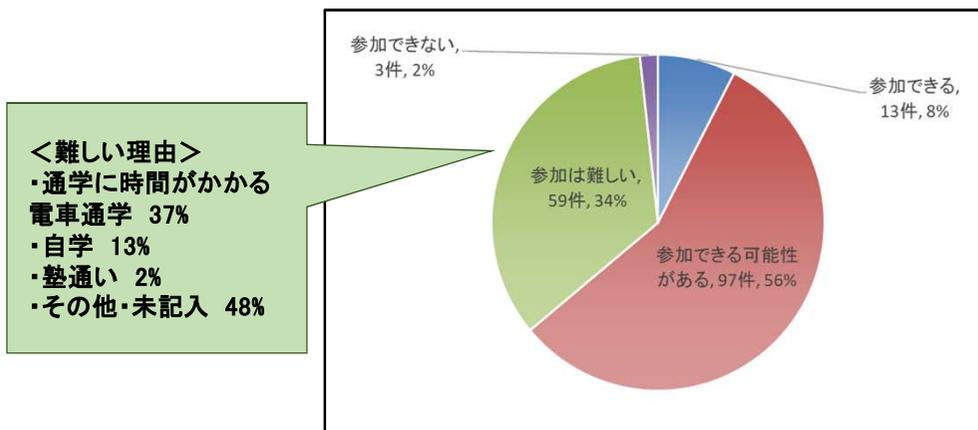
<取り組んでみたいこと>

- 高校生レストラン(43)
- まちづくり事業の企画運営(23)
- 物販の企画製造販売(22)
- 高校生が教える学習指導ボランティア(15)
- カフェ(11)
- イベントの企画運営(7)
- アルバイト
- JK課プロジェクト

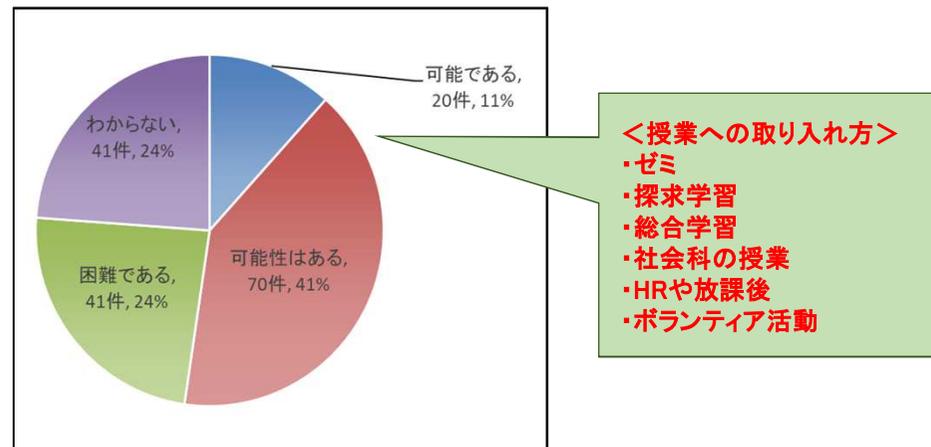
教職員回答

【回答数】172人

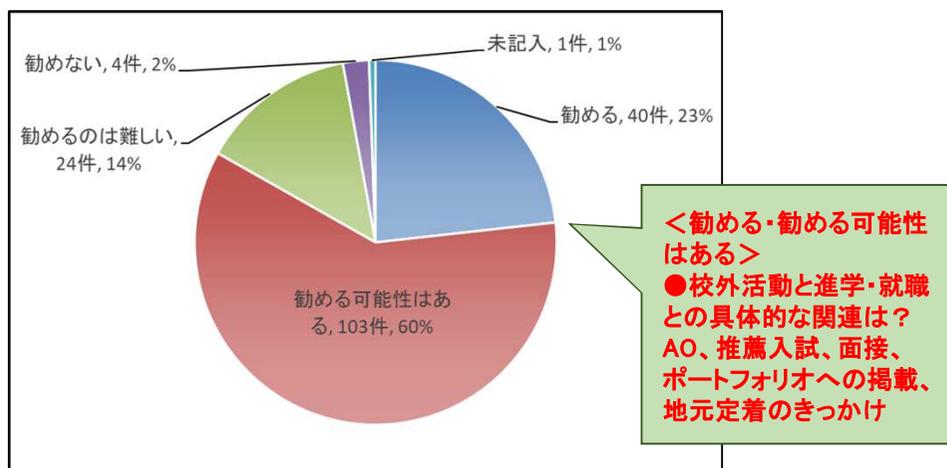
● 高校生は、授業や部活動、生徒会活動などの学校での時間が終わった後、郊外活動に参加できると思いますか？



● 駅前エリアを活用した各種まちづくり事業について、貴校の授業に取り入れることは可能だと思いますか？



● 貴校の生徒が校外活動に参加することが当該生徒の進学や就職につながる/役立つとしたら、生徒へ参加を勧めますか？



● 仮に、貴校が(高校生が自主的に運営する空間・機能の)運営主体校となった場合、教職員はどのように関わっていくことが望ましいと思いますか？

● 複数回答あったもの
生徒の自主性を第一に考える、総じて教員が関わるのは難しい、運営主体は別に必要、状況の把握とアドバイス、

● 高校生が活躍できる・利用できる施設や機能はどのようなものだと思いますか？

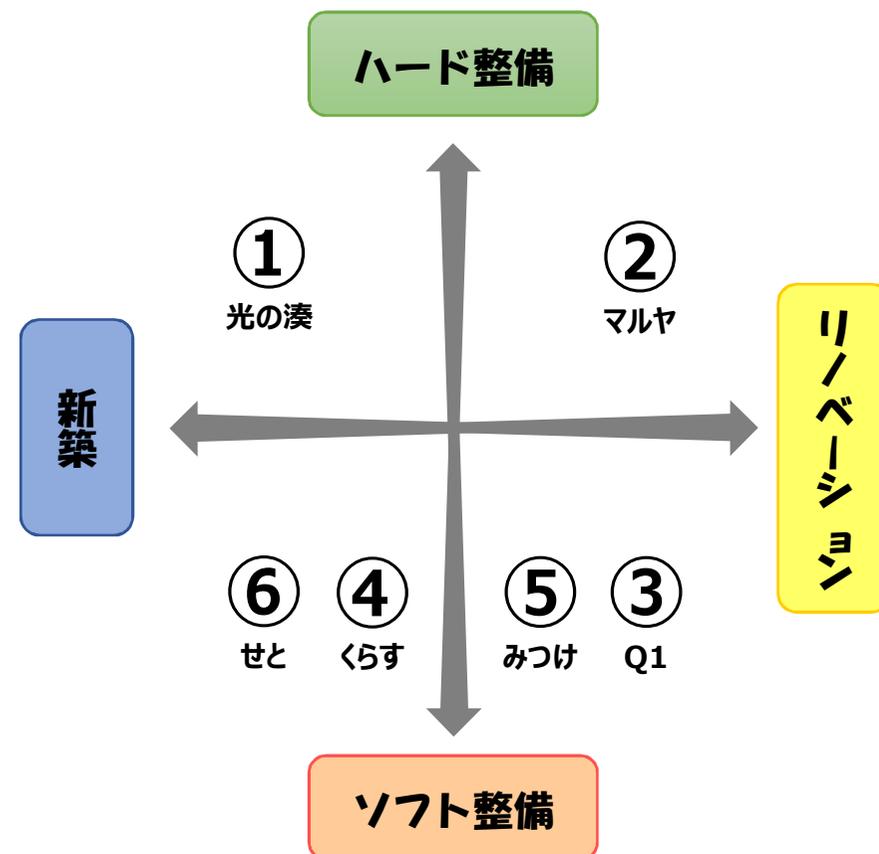
● 複数回答あったもの
勉強学習(自学自習)スペース、多目的スペース、展示・発表の場、起業しやすいような環境づくり、ボランティア活動の拠点、職業体験やアドバイザーとの相談の場、国際交流の場、大学の講座を受講できる場

対象事例（ねらい）

駅前地区における市街地再開発事業事例、大型商業ビルのリノベーション事例、ハード整備によらない若者やコミュニティを巻きこんだソフト事業など、本市と課題や状況などが似ている他市のまちづくりの取り組みを紹介

①	山形県酒田市 令和2年末人口:100,172人	光の湊(酒田駅前地区第一種市街地再開発事業) 図書館・ホテル・マンションの複合施設
②	鹿児島県鹿児島市 令和元年末人口:602,465人	マルヤガーデンズ 閉業した百貨店のリノベーション商業テナント施設
③	山形県山形市 令和元年末人口:249,020人	山形まなび館・Q1プロジェクト 小学校校舎を再利用する活用実験プロジェクト
④	東京都稲城市 令和2年末人口:92,262人	くらすクラス・くらす広場 地域コミュニティを生み出すきっかけづくり、学びを通して多世代が交流できる施設の運営
⑤	新潟県見附市 令和2年末人口:39,908人	みつけ駅周辺つかう会議 駅利用者が意見交換し社会実験を繰り返しながら駅周辺の使い方を議論する場の創出
⑥	愛知県瀬戸市 令和2年末人口:129,167人	大学コンソーシアムせと 駅前再開発ビルの整備と大学連携を核としたコンテンツの導入

【方向性分類】



事例概要

- 施行者 光の湊株式会社(個人施行者)
※酒田市、西松建設(株)が出資する会社
- 所在地 山形県酒田市幸町一丁目地内
- 事業者 酒田駅前地区第一種市街地再開発事業
- 施行区域 1.4ha(道路中央線までの区域)

特徴

- まちづくりのビジョンの検討等の段階から市民が参加
- 市の依頼により、地元大学が施設の愛称・ロゴデザインを担当
- ホテルの運営者と地元大学が連携し、授業の一環として学生が宿泊プラン等の提案を行う
- 2階の交流スペース等の管理・運営を酒田光陵高生でつくる一般社団法人SKIESが行っている

検討に至った課題と経緯

- 中心市街地の人口の減少と高齢化、空き地・空き家の増加、建物老朽化や緊急車両の通行が困難な狭隘道路による災害時脆弱性、交通結節機能の分散や駅前広場における機能が不十分で駅前の魅力を活かしていないこと等が課題であった。
- 平成9年にジャスコ酒田駅前店が閉店、空き地の有効利用が求められていた。民間業者による再開発事業が計画されたが、平成18年・25年と二度頓挫。その後、市民等で構成される産官学の組織を設置し、駅周辺地区のまちづくりビジョン、公共施設の基本方針、管理運営計画等の検討を行う。
- 対話型市場調査において、集客機能の期待から行政施設の入居要望があり、図書館移転を選択。
- 図書館の指定管理者であるTRCが駅の最大利用者が高校生であることに着目し、高校生に対してヒアリングを実施し、高校生との連携を提案。

事業内容

- (仮称)酒田コミュニケーションポールの愛称(ミライニ)とロゴデザイン、複合施設棟「月のホテル」及び「月のみち」のロゴデザイン、「光の湊」のロゴのリデザインを、市が東北芸術工科大学グラフィックデザイン科に依頼し、学科長をはじめ、プロジェクトメンバーが制作を担当。
- 地元民間業者が取得運営を行う「月のホテル」と東北公益文科大学が連携し、公益学部公益学科経営コースの学生の授業として「競争型課題解決演習」を行い、宿泊プラン・販売促進企画・レストランの名称・コンセプト・料理や提供方法等を提案。
- 交流スペースのスタッフとして、酒田飽海地区の高校生が利用受付や清掃に当たっている。酒田光陵高生でつくる一般社団法人SKIESが地区の全高校に呼び掛け、4校の生徒100人以上が集まった。また、酒田光陵ビジネス流通科の3年生9名のチームLiv-onがイベント企画等を計画中。

事例概要

- 管理者 株式会社丸屋本社
- 所在地 鹿児島県鹿児島市呉服町6-5

特徴

- 閉業した百貨店をリノベーションしたテナント型商業施設の整備
- 開業以来のテーマ「つながる」を掲げ、地域密着と収益性との両立を図る

検討に至った課題と経緯

- 1892年創業した呉服商「丸屋」は1961年鹿児島市天文館地区に「丸屋デパート」を開店。1973年に三越と業務提携し、順調に売上を伸ばしていた。
- その後、郊外に大型店舗ができるにつれ、「買い物も食事も全てここに行く」という鹿児島市天文館地区の一極集中型の構造が崩れ始め、地区全体で売上が減少し始めた。
- 丸屋は三越側と建物の耐震診断の必要性を協議していたが、全体的な改装を行っても採算が取れる見込みがなくなったため、2009年5月に閉店。近隣に空き店舗が出現するなど影響が現れ始めた。
- 株式会社丸屋本社が国交省の「暮らし・にぎわい再生事業」等を活用し、新たな商業ビルへの改修を決める過程の中で、「芋づる式」の出会いが「人と人、人とモノをつなぎ、つねに新しい何かを生み出す、すべてをつなぐ場所＝ユナイトメント」というコンセプトを生み出した。

事業内容

- 三越の様な「デパートメントストア」ではなく、顧客やテナントなど全てが有機的につながり合う「ユナイトメントストア」を標榜している。地域の集いの場となるよう「ガーデン」が配置されているほか、外壁や屋上が緑化されているのが大きな特徴である。また、内装には内装材として地元の陶器である薩摩焼、地場の間伐材といった、鹿児島ならではの素材が使われている。
- 「ガーデン」は地元・鹿児島の NPO 法人など団体や個人のコミュニティ、地元と縁あるアーティスト、マルヤガーデンズのテナントなどにより、展覧会、シンポジウム、販売会、各種教室やコンサートなど様々なイベントに使われている。

山形まなび館・Q1プロジェクト

事例概要

- 企画 東北芸術工科大学・Q1プロジェクトチーム
- 所在地 山形市本町1-5-19(第一小学校旧校舎)
- 運営 山形市、東北芸術工科大学

特徴

- 地元大学が中心となった賑わい創出施設の再整備・再構成
- 活用実験 → 調整工事 → 本格始動という3段階の事業計画

検討に至った課題と経緯

- 県内初の鉄筋コンクリート校舎であり、国の登録有形文化財・近代化産業遺産にも登録された第一小学校の旧校舎は、中心市街地のにぎわい創出施設「やまがたまなび館」として活用されていたが、現時点では1階と地下のみの利用に留まっている。
- 山形市のユネスコ創造都市ネットワークへの加盟認定を期に、山形市からの委託を受けた東北芸術工科大学が中心となって、利用されていなかった階を含む全館の再整備を行い、「創造都市の拠点・シンボル」として中心市街地の活性化につなげていく取り組みが行われている。

事業内容

- 「Q1(キューイチ)プロジェクト」は、再整備・再活用していく大規模プロジェクトの第1フェーズ(活用実験フェーズ)として、「創造都市やまがたの拠点はどこにあるべきか？」を問いかける。
- 世界中から多くの映画関係者が集まる山形市は、クリエイティブ産業の関係者数が同規模の地方都市を圧倒的に上回っている。そのやまがたのクリエイティブに身近に触れられる場、地元企業のテストマーケティングの場、地元産業とクリエイティブが出会い技術革新を起こす場等、様々なイベント、ワークショップ等を通して拠点の活用の可能性を模索していく。

事例概要

- 管理者 (一社)いなぎくらすクラス
- 所在地 東京都稲城市東長沼2-516-2(JR南武線稲城長沼駅高架下)
- 敷地所有者 東日本旅客鉄道(株)八王子支社

特徴

- 南武線の高架下活用を地域パートナーとともに行うJR東日本のプロジェクトで、JR・市民・行政が結びついた
- 学びをきっかけに多世代が集まれる場として、まちの先生がまちの人に教えるプログラムを主宰し、子どもたちが雨の日も安全に遊べる「くらす広場」を中心に、多世代が自然と集まる場所

検討に至った課題と経緯

- JR東日本は、「選ばれる沿線ブランドづくり」と称し、「一つの路線とその沿線を一体として捉えた『線』や『面』の開発を推進し、住みたいと思ってもらえる沿線づくり」を行っている。南武線南多摩駅から矢野口駅間の高架化事業で生まれる高架下の空間を地域の人々に活用してもらえよう、構想段階から地域の人々と企画を考えることで、地域に根付く場を目指した。
- 「たべよう・はなそう・つくろう」をコンセプトに、ワークショップも行っている古民家カフェのオーナー、「地域の人と交流がもてるような賃貸住宅」のオーナーなど、まちのキーパーソンを訪ね、行政サイドとも駅前に賑わいをもたらすための拠点として一緒にまちを盛り上げていく方針で一致し、観光情報発信施設である「いなぎ発信基地ペアテラス」とそれに併設された交流施設である「くらすクラス」がオープンした。

事業内容

- 「こどももおとなもまざって遊び、学び、表現する」という「くらすクラス」のコンセプトに基づき、稲城市内外の多世代、多様な人たちが交流できる「居場所」となっている。
- 気軽にふらっと来て、自分たちで椅子や机を出し、人工芝を引いて子どもを遊ばせながら談笑する子ども連れもいれば、開講されている講座や駅のポスターをきっかけにやってくる人、市の養成講座を受けた子育てサポーターなど、くらすクラスをとおして、多世代がゆるやかにつながって、みんなが居心地のいい場所づくりを行っている。

みつけ駅周辺つかう会議

事例概要

- 参加者 見附市・つかう会議

特徴

- 駅周辺の利用について、学識者・関係機関・公募市民らで構成されたまちづくり協議会だけではなく、実際に利用している利用者が自由に意見交換し、社会実験を繰り返しながら駅周辺の使い方を議論していく「つかう会議」を設けた
- つかう会議のメンバーが自らの関心ごとに応じてチームをつくり、社会実験を行い、事業に反映

検討に至った課題と経緯

- 見附駅は駅前には商業施設などもほとんどなく閑散としている反面、朝晩のわずかな時間帯は激しい送迎ラッシュがあり、渋滞や混雑が日常化していた。
- 課題への対応、都市の玄関口としてふさわしい見附市の顔を形成するため、市は見附駅周辺整備事業を立ち上げた。学識者・公募市民らで構成する「見附駅周辺まちづくり協議会」で検討を始めたが、市民や民間がどのように駅前を使いたいのかを把握するため、参加者同士がフランクに意見交換できる「みつけ駅前カフェ」を開き、実際の利用者の声を集めた。
- 3回の駅前カフェ開催後、アンケートで参加意向を確認し、「みつけ駅周辺つかう会議」を発足して、駅の使い手の立場から整備事業を検討していくとともに、整備後のマネジメント体制についても議論していくこととなった。

事業内容

- 駅前について、実際の利用者として想定される高校生が「駅前カフェ」で意見を出し、社会実験にも参加している。
- 他にも大学生や通勤で利用する人が自分の大学や企業の産物を持ち込んでいる。社会実験で行ったカフェには、地元企業からの貸し出しや大学生が制作した家具などが置かれ、地元産業であるニット製品のファッションショーなどのイベントも行われた。
- まちづくり協議会では「駅前カフェ」での意見交換を経て、「市民が駅前に何を期待しているかがよくわかった」等の意見や、交流広場を前提に考えた際の課題についての意見など、議論が広がった。
- 年齢や所属の壁を感じない雰囲気「つくる会議」により、まちづくり協議会だけでは見えてこなかったニーズや実験の結果が事業に反映されることとなった。

大学コンソーシアムせと

事例概要

- 事務局 〒489-0044 瀬戸市栄町4番地 パルティせと 3階
- 加盟大学 愛知医科大学・愛知工業大学・金城学院大学・名古屋学院大学・名古屋産業大学・南山大学

特徴

- 瀬戸市と近隣の大学・市民が協働して、瀬戸地域の新しい文化活動・まちづくりを創成していくための組織
- 設立のきっかけとなった愛・地球博の準備期間に市民の環境意識が高まり、学生と交流することで自分たちが動かなければという気運が生まれた。

検討に至った課題と経緯

- 愛・地球博に向けて、市が中心となって尾張瀬戸駅前にホテルと公共施設を含んだ駅前再開発ビルの計画を進めていたが、ホテル誘致断念により暗礁に乗り上げてしまった。
- そこで、市民参加により駅ビルの機能を一から話し合っ決めてようと結成されたのが「駅ビル検討ワーキンググループ」である。大学コンソーシアムせとは、この「駅ビル検討ワーキンググループ」の提言が元となり、地域と大学、行政と大学、大学同士の交流連携を進めるために設立された。
- 大学が主導であると各大学の利害調整が発生するが、市が主導したので調整が必要とならなかった。
- 駅ビル「パルティせと」には市民の学びと交流の場として、「大学コンソーシアムせと」と「国際センター」が入ることとなった。

事業内容

- 加盟大学の教職員・学生と瀬戸市が地域・社会貢献のための新しい仕組みや文化を創造することを目的として「新しい文化創造プロジェクト」を実施
 - 『高齢者、大学生、子どもが協働で行う地域資源の発掘・創出』
 - オオサンショウウオの里を守るプロジェクト
 - 高校生読書活動推進プロジェクト
 - こどもの体力・運動能力、活動意欲向上を目指した調査・実践 等
- 大学生が行う自由で自発的なまちづくり活動を「大学生によるまちづくり活動応援助成金」により支援
 - 『IT講習会～あらためてITを学ぼうin瀬戸～』
 - 『瀬戸の広告物制作』 等

第3回城下のまち
鶴岡将来構想策定委員会

〈プランニングチームからのご提案〉

2021.3.19

〈プランニングチームのミッション〉

鶴岡駅前がどんな場所であったらよいのか、鶴岡駅前の将来像を描き、役割を再定義して、具体策の素案づくりをすること。

- 2020年度:鶴岡駅前のビジョンとコンセプトづくり
- 2021年度:打ち手（具体策）の素案づくり

【これまでの経過】

- ★前提条件:駅前の活性化→まずは駅前の老朽化した施設をどうするか？マリカをどうするか、ジャスコ跡地をどうするか、市内の公共施設の再編も視野に。
- ★第2回策定委員会:ターゲットとコンセプト決定
- ★ターゲットとした高校生の現状把握のため、アンケート調査を実施
- ★第3回策定委員会:駅前のビジョンと、ビジョン実現の核となるマリカのイメージを共有

【コンセプト】

リノベーションとソフト事業

学びのサードプレイス、高校生をターゲットとした「令和の藩校」

他地域が行っていない**オンリー1の鶴岡モデル**となるビジョンを描くために、選択と集中を行う必要がある。そのためにハード整備にはお金をかけすぎず、高校生をターゲットとした**ソフトとデジタル**による打ち手を検討する。

【現状把握】

鶴岡市の高校生と教員へのアンケート調査を実施

- 鶴岡のまちが好きだと感じている。一方で遊べる場所がないなど不満多数。
- 駅前は古臭い、さびれている印象。
- 駅前に勉強できる場所、集える場所、活動が発表できる場所がほしい。
- まちづくりへの興味は、わからないと回答したのが約半数。
- 教員は校外活動への参加は肯定的。実現のためには学校とは別の運営主体が必要とも。

【コアビジョン（マリカの将来像）】

- 鶴岡の高校生が、集い、誇れる、自慢したくなる鶴岡駅前を目指す。
- 鶴岡の高校生が、「マリカ」からまちとつながる。（多世代との交流）
- 鶴岡の高校生が、「マリカ」から世界とつながる。（デジタルの活用）

2021年度は、打ち手（具体策）の素案作り
ビジョンを実現するプロジェクトの検討

2020年度

2021年度

場所のイメージ：ビジョン実現の核となる「マリカの将来像」のイメージを共有



場所のイメージ



その場所でできること・可能性



その場所でできること・可能性



その場所の未来像（世界と繋がる）



■世界と繋がっているイメージ



■世界とコミュニケーションのイメージ



■10代で起業 のイメージ

その場所の未来像（農業、地域貢献）



26



27



28



29

■ 地域貢献する高校生 イメージ

〈イメージ写真引用元〉

- ① <https://ibasho-ob.com/archives/4816>
- ② <https://ibasho-ob.com/archives/4816>
- ③ <https://benesse.jp/kyouiku/201610/20161017-4.html>
- ④ <https://mainichi.jp/articles/20190618/ddl/k07/100/159000c>
- ⑤ <https://www.vie-orner.com/be-go/b-about/study>
- ⑥ <https://www.mugendai-web.jp/archives/10428>
- ⑦ <https://www.nikkei.com/article/DGKKZO55499110R10C20A2NN1000/>
- ⑧ <https://www.google.com/url?sa=i&url=http%3A%2F%2Fhome.asp-k.com%2F%3F%3D941876&psig=AOvVaw0TBYdnrYyhE3NvWIWH3S w&ust=1615276657776000&source=images&cd=vfe&ved=0CAIQjRxqF woTCLDsv9ecoO8CFQAAAAAdAAAAABAD>
- ⑨ https://edutmrrw.jp/2017/innovation/0822_reading
- ⑩ <https://amanaimages.com/info/infoRF.aspx?SearchKey=10337001393>
- ⑪ <https://amanaimages.com/info/infoRF.aspx?SearchKey=02266013540>
- ⑫ <https://careerhack.en-japan.com/report/detail/928>
- ⑬ <https://www.koukouseishinbun.jp/articles/-/1737>
- ⑭ https://www.excite.co.jp/news/article/Sirabee_20161269129/
- ⑮ <https://cancam.jp/archives/637141>

〈イメージ写真引用元〉

- ⑯ <https://waza-catalog.com/log/2020/02/1117/>
- ⑰ <https://prtmes.jp/main/html/rd/p/000000002.000046189.html>
- ⑱ <https://waza-catalog.com/log/2020/02/1117/>
- ⑲ <https://activo.jp/articles/47178>
- ⑳ <https://www.kanaloco.jp/news/life/article-371942.html>
- ㉑ <https://activo.jp/articles/80193>
- ㉒ <https://j-gift.org/22696/>
- ㉓ https://www.insc.tohoku.ac.jp/japanese/activity_report/
- ㉔ <https://www.asahi.com/articles/ASN6Y3C8KN6SUTIL003.html>
- ㉕ <https://careerhack.en-japan.com/report/detail/928>
- ㉖ <https://www.asahi.com/articles/ASN6Y3C8KN6SUTIL003.html>
- ㉗ <https://www.jacom.or.jp/ryutsu/news/2020/06/200630-45059.php>
- ㉘ https://www.maff.go.jp/j/pr/aff/1703/spe1_01.html
- ㉙ <http://www.keisei-kai.jp/mkeisei/blog/info/197>